

News

大京建機、独リープヘル社の200t級最新クレーン増設 ドバイでのクレーンレンタル事業・地盤改良事業を拡大

～アブダビ「サディヤットアイランド」の建設プロジェクトへ配備が決定～

大京建機(株) (本社：東京都大田区、代表取締役：内田隆一氏) は、アラブ首長国連邦 (UAE) ドバイで業務提携しているSalim Equipment Rental LLC (以下、Salim社) と共に、ドイツの建設機械メーカーであるLiebherr (以下、リープヘル社) の200t級ヘビーデューティークローラクレーン「Liebherr HS 895 HD」を2台購入し、同社がドバイで保有するクレーンが合計16台となった。また、クレーン納車を記念して去る2月18日にドバイにて式典を実施し、在ドバイ日本国総領事館の関口総領事やメーカー関係者が参列した。



写真左から、大京建機(株) 代表取締役社長 内田隆一氏、在ドバイ日本総領事館 関口総領事、Salim社代表 Mr. Sajil Salim

クレーン建設揚重業を主に手掛ける同社は、グループ会社である(有)アビルコインターナショナルを介し、2005年より中東ドバイを中心にクレーン売買を開始。2015年にはSalim社の前進であるAAA社と業務提携を結び、クレーンの売買と共同購入によるレンタル事業を拡大した。2020年には、ドバイの経済特区ジュベル・アリ・フリーゾーンに現地法人Daikyo Kenki Middle East FZEを設立し、同年7月、地盤改良工事分野に新規参入した。

この程、リープヘル社の200t級最新クレーン「Liebherr HS 895 HD」2台をSalim社と共同購入し、ドバイにおける保有クレーンを計16台へと増設した。最新クレーンの導入により、さらに効率的な作業が可能となった。今回追加した地盤改良用の2台は、アブダビから500m沖に位置する島「サディヤットアイランド」の建設プロジェクトに配備されることが決まっている。

最新モデルのクレーンをラインナップ、作業効率・プロダクティビティでの差別化

2015年にSalim社とクレーンのレンタル事業を開始した当初、2台の250tクローラークレーンから始まり、徐々にクレーンを増設してきた。世界的に地盤改良で使用する建設機械は10年以上経過した古いモデルも多い。同社は最新モデルをラインナップとして取りそろえた結果、作業効率やプロダクティビティの違いでユーザーに選択してもらえるようになった。2020年には、リープヘル社の「Liebherr HS 8130.1」を2台購入し地盤改良分野に進出^(※)、2021年現在では今回の購入含めて合計16台のクレーンをドバイで保有し、中東地域をはじめアフリカ、インド、東南アジアといったグローバルな規模で建設機械のレンタルを実現できる体制が整った。今後同社は、地盤改良分野で更なる発展を目指していく。



今回増設した「Liebherr HS 895 HD」



2021年2月18日にドバイにて記念式典を実施

(※) 参考プレスリリース

大京建機㈱がリープヘルの最新モデルデューティサイクルクローラークレーンを共同購入
ドバイでの保有クレーンを増設

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000003.000059849.html>

リープヘル社最新モデル「Liebherr HS 895 HD」スペック

最大積載量(リフト能力) 200t

最大引き上げ高さ 84.2m

最大けん引力 2 x 350 kN

エンジン出力 670kW

●クレーン紹介ページ(リープヘル社公式サイト内)

<https://www.liebherr.com/en/jpn/products/material-handling-equipment/duty-cycle-crawler-cranes/details/hs895hd.html>

大京建機(株)

代表取締役社長:内田隆一氏にインタビュー



Q.1 〈吉田〉: ドバイにおいて、最新モデルのクレーンをラインナップし提供できる体制を整えるまでの難点と、どのようにクリアしていったのか?

A.1 〈内田氏〉

2005年ドバイに行き始めた当初は、世界のクレーンの20%がドバイに集結していた。初めてドバイに視察に行った時に、初代タダノ・ドバイ営業所長から紹介された、パキスタン人兄弟が経営している、現地のクレーンレンタル会社「AAA社」と出会い、こんな感想を抱いた。『彼らはなんて高い修理技術をもっているのか、中古の機械にも詳しい。クレーン以外のビジネスでも、彼らのような人達と将来長く取引したい。』その後、日本から相当数のクレーンを「AAA社」に買ってもらい、以降取引を通して10年来の信頼関係を醸成してきた。

そのうえで初めて大京建機とAAA社でお金を出し合って2015年に機械を共同購入していく。手初めに2台のIHI製250tクローラークレーンを購入した。その後すぐ別の中古のKOBELCO製の90tクローラークレーン5台を、シンガポールのマーケットから購入した。そうこうしているうちに、IHI製の70tの新車を2台増車する。言語の違い、文化の違い、売掛金の回収、修理コスト、管理業務、報告連絡等、双方が丁寧にやり取りし問題提議解決をしながら5年の月日が経っていた。その当時の会社の方向性は機械を大型化していくことだった。2017年7月に中古リープヘル製350tクローラークレーンを購入した。350tより上のクラスを増やしていくべきなのか?または特殊な機械を導入するなど、例えば高付加価値で単価が高くなるDC(ダイナミックコンパクション)と呼ばれる地盤改良分野に進むかで悩んでいた。投資金額もネックになっていた。それから3年が経過した頃、

クローラークレーンレンタルのみの事業だと単価が低い。クレーン単体でレンタルするより、アタッチメントを付けた方が単価は高いのでは?と思ったりしながらも、2019年末からDCの購入計画が本格的にスタートした。リープヘル社の営業担当者からもGCC諸国でDCが足りなくなると聞いていた。コロナパンデミック直前の2020年2月に中古機械を見に、ヨーロッパへ出張した。DCクレーンは衝撃による機械への負担が多いハードな仕事なので、メンテナンスの事も考え、中古ではなく新車の方が良いと判断をした。

Q.2 〈吉田〉: 「エティハドール」施設プロジェクトでの稼働状況は?

A.2 〈内田氏〉

クレーンは昼夜兼行で動いていて、ハードな仕事なので新車にしているよかったと思う。トラブルがあってもリープヘル・ドバイのスタッフ対応は非常に良く、多少のトラブルがあっても乗り越えられていた。従前の機械だと一日で500発だったところが、最新機械だと600発以上落とせる。オペレーターの教育にもSALIM社(AAA社分裂後)のサジル社長が熱心に教育しているために高い稼働状況を保っている。

Q.3 〈吉田〉: 「サディヤットアイランド」の建設プロジェクトにおける役割と意義について

A.3 〈内田氏〉

2007年頃からアブダビ首長国が肝いりで始めた一大都市開発プロジェクト『サディヤットアイランド-幸せの島』サディヤットとは「幸せの意味」今でいうとサステナブルエネルギーを循環して行くモデルケースとして島全体を再開発していくコンセプトだが、リーマンショックやアラブの春の影響、2014年に原油価格が下落したために当初2017年完成予定だったプロジェクトが遅れている。世界に役立つような技術を実現できるこのようなテストケースに、当社の持っている機械がプロジェクトに貢献できることは意味がある。

広大な埋め立て地に適したDC(ダイナミックコンパクション)はコスト面からみても、施工の速さからみても非常に有効だと思う。砂漠のプロジェク



■週刊「建機新報」 代表取締役社長:吉田隆史

トに関しては、地盤を改良するにあたって最良の工法であり、アブダビが目指そうとしていた世界に役立つ技だと思う。やはり古い機械だと施工効率が落ちてしまう。最新鋭のマシンを導入することによって以前に比べ、高い効率で施工できる。それがもしサディヤット島が予定より早く完成して、世の中に役立つような技術が早くできるようであれば当社としても非常に貢献できているのではないかと思う。

Q.4〈吉田〉:ダイナミックコンパクション(Dynamic Compaction)の市場での今後の展開は?

A.4〈内田氏〉

世界的に巨大な地盤改良開発会社のうちの数社は当社の顧客なので、今後のニーズをよく聞きながら市場の動向を見極めていきたい。例えば『ドバイ都市マスタープラン2040』では都市計画を『サウジビジョン2030』では国をあげて脱石油、ネオーム都市を筆頭に何兆円(規模)の開発投資が予定されている。

世の中全体が『脱炭素(カーボンフリー)』に向かっていく中で、湾岸GCC諸国を見れば、再生可能エネルギープラント建設、サステナブルの世の中を目指して未来都市を建設していく。そういった建設には、必ずDC(ダイナミックコンパクション)が必要になるだろう。

世界的に展開している地盤改良開発会社の意向も聞きながら、将来的には、同じようなサイズのDCマシン、或いは、地盤改良に必要な付加価値機械、例えばCPTや違う地盤改良工法に用いるRIC(ラピッドコンパクション)なども業容拡大していくべきなのか、もうふた回りぐらい大きいサイズの機械なのか、その辺りをお客様と見据えながら、グローバルな地盤改良機械レンタル会社として本格的にマーケットに参入していくのか検討していく。

Q.5〈吉田〉:ドバイ拠点、インド拠点に続く、アフリカマーケットへの事業拡大に向けての取り組みについて

A.5〈内田氏〉

アフリカマーケットはまだしばらく先の事だと思う。

現状インド事業については、日本国内で展開している不動産事業のノウハウをインドでも活かして不動産事業で展開を図っていききたい。ただ現状インドはコロナ感染で渡航できない。インド事業で重要な事は、まずローカルの人脈を築くこと、次に情報と拠点を築くことである。ドバイは湾岸GCC諸国の広がりがあるのでインド現法は重要な拠点となるだろう。アフリカ大陸を見る前に恐らくイランの需要が出てくる。まずはドバイを拠点に近隣諸国にアプローチを図っていく。

アフリカマーケットはドバイとインドで何かしら

のビジネスを展開していれば必ず情報が入ってくる。未開拓ではあるが少しずつ人脈を築くことが先決だ。ビジネスを通して人との出会いを大切に、信頼関係を醸熟させながら、情報と拠点を少しずつ築いて、役に立てることがあればと考えている。

Q.6〈吉田〉:国内外で、中古市場での需要も高まると予想されるが?

A.6〈内田氏〉

国内でいえば、非常に中古の玉がダブっている。日本の中古は元々アジアでも人気だったが、余りにも一時期、10年以上経過したクレーンの値段が高騰してしまったために、今は逆に反動でピーク時の、3~4割は安くなっているのでは?物によって、機種によって尚且つ、価格が下がった状態でもコロナの影響もあり、需要は回復していないので国内に物がダブっているのが現状ではないだろうか。その反面、年式が浅い高年式車に関しては、少し国内で出ている。しかし新車価格が上がってしまったために、高年式の中古については引き合いが徐々に高まっていくであろう。

ただ、先を見ると2022年~2024年までは関東圏において、大規模な再開発とか鉄道などの土木工事、発電所関連の工事が相当量、見込まれている。そうすると新車や高年式の中古の需要も増えてくるのではなかろうか。海外もコロナワクチンの普及によって人の移動ができれば、海外マーケットの需要も今よりは良くなっていくのではないかと思う。

Q.7〈吉田〉:建機業界でグローバルに展開するリーディングカンパニーとしての今後の目標は?

A.7〈内田氏〉

元々、中近東で1つあり、東アジアで1つあり、東南アジアで1つ拠点を作り、大きなことはできないが、小さい規模で拠点を構えていきたいと考えていた。インドネシアとは提携間近。アラブ首長国連邦のドバイでは既に16台のクローラークレーンに特化したレンタル事業を共同運営している。インドはコロナが収束すれば、次はアフリカが見えてくる。

経営理念に書いてある通りで、クレーンという物を還流することを通して、拠点ごとに信頼関係を構築し、相互信頼と相互補完を構築して仕事に繋げていきたい。最近では当社のHPがリニューアルし、企業理念を端的にあらわす言葉(タグライン)として「人を世界を拓いていく」に思いを込めた。

「売ってよし、買ってよし、世間よし」ではないけれど、関わった人々にもメリットがあるように、少しずつの利益でも、そういうことを胸におきながら、仕事が少しずつ広がると良いと思う。

大京建機、April dreamとして叶えたい「夢」を発信

再生可能エネルギー発電所のメンテナンス事業にも注力、SDGsの実現に貢献

「大京建機は、世界中に奥行きのある人脈を築き、そこで仕事を作り出し社会に貢献していきます。」

大京建機(株)(本社:東京都大田区、代表取締役・内田隆一氏)は、「April dream」を発信した。

同社は日本からアジア、中東、アフリカまで世界中にクレーンを還流させ、再生可能エネルギー発電所のメンテナンス事業にも注力する。

持続可能な社会の実現に寄与する。それが、大京建機の使命と考えている。



■同社の思い

現在、世界的に「SDGs=持続可能な開発目標」の実現が急務とされている。大京建機は、中古クレーンを世界中に還流させ、クレーンの部品リサイクルも行なうとともに、風力をはじめとした再生可能エネルギー発電所のメンテナンス事業に進出することで、SDGsの実現に貢献したいと考えている。地域社会においても、災害時に警察・消防・首都高速道路などと連携を取り、クレーンを使った救助活動を続けていく。



■企業理念

『時代の変化に応じていくために。確かな技術と品質を次世代につなげていくために。前例も、制約も、国境も、乗り越えながら。惜しみない育成で、より期待以上の人材を。他にはない独創の発想で、より信じられる価値を。10年先や100年先を見据えて、よりグローバ

ルな挑戦を。

着実に、確実に、誠実に、ひとつずつ。

安全を、安心を、信頼を、世界へ、未来へ。

これからも「ここまでやるか」をどこまでも。

関わる一人ひとりとともに

新しい可能性を切り拓いていく私たちは、大京建機です。』

■同社の活動

・クレーン建設揚重業 (Crane Hire) : 最新鋭のクレーンと習熟したクレーンオペレーターを有する企業として50年以上、建設業界に貢献してきた。

道路法に基づく、特殊車輛の誘導事業にも近年は力を入れている。

・クレーンベアレンタル事業 (Bare Rental Business) : 操縦性・安全性に優れた最先端機種・車種を取り揃えたクレーンベアレンタル事業を行なっている。繁忙期など、クレーンベアレンタルの急なニーズがある場合でも、ユーザーに応えられる体制を確立している。

・風力事業 (Wind Power Business) : 再生可能エネルギーの必要性が高まり、環境保全や脱炭素化が不可避となっている昨今、大規模な揚重作業が必要とされている風力発電のメンテナンス事業に同社の大型クレーンや揚重作業のエキスパート人材で貢献したいと考えている。



・海外事業 (Overseas Business) : 2021年現在、UAEドバイ、南インドに位置するバンガロールの2つの海外拠点で、クレーンビジネスや不動産投資事業に着手している。

また、英国サプライヤーの日本総代理店となっているアビルコインターナショナルと共に、日本販売パートナーとして「アウトリガーパッド」の普及に努めている。

・中古クレーン売買事業 (Used Cranes) : クレーン建設揚重業のノウハウを活かして、安心してオペレーション頂けるよう丁寧にメンテナンスを施した中古クレーンを、国内はもとより、世界各国に販売している。

・第二事業 (The Second Business) : 収益基盤を安定させ、ユーザーに安定したクレーン供給を継続するための第二事業として、オフィスビルや商業ビル、マンション、倉庫など多角的な投資を行なっている。